

とっておきのじゅもん

天王小・4 阿久津 拓都

ぼくは、今日もとっておきのじゅもんをとなえます。

「大きくなあれ。」

野菜たちが、水をかけられてきらきらとかがやいて見えます。

ぼくは、野菜を作っています。今年はプランターと畑で作りました。四月の終わりに、たくさんのなえを買ってきました。トマト、ミニトマト、ナス、ピーマン、ゴーヤ、ズッキーニ、クロウリ、キウリ、スイカ、メロン、カボチャ、小松菜、レタス、ブルーベリー、えだ豆、トウガラシを植えました。植えたとき、ぼくは必ずとっておきのおまじないをとなえます。

「大きくなあれ。」

願いをこめて、大きな声でなえたちに声をかけます。気のせいか、なえたちがうれしそうに見えます。早く大きくならないかな。

毎日、朝と夕方に水やりをします。お母さんといっしょに、野菜たちにたつぷりと水をかけていきます。あるとき、お母さんが「この畑に、名前を付けようか。」

と、言いました。ぼくの名前は「たくと」で、それにママの「ま」を合わせて、「たくま農園」に決まりました。

たくま農園の野菜たちは、毎日少しずつ大きくなっていきました。いろいろな花もさきます。実が出来始めているのを見つけたたびに、ぼくはうれしくてうれしくて、

「やったあ！」

と、とびはねました。

初めてしゅうかくできたのは、ブルーベリーです。むらさき色になるまですぐ時間がかかったけれど、おいしそうに色づいた実を見つけたときはうれしくてたまらなくて、ぼくは大事にそっと実を取りました。自分で育てたブルーベリーは、今まで食べた中で一番おいしかったです。

それから、たくさんの野菜たちができました。スイカは小さかったけれど、ほっぺが落ちちやうくらいあまかったし、ナスはステーキにして食べたなら、口に入れたしゅんかんにとけていきました。ぼくが、

「家でとったナスが一番おいしいね。」
と言ったら、お母さんが笑顔になりました。

トマトは毎日六こくらいとれました。大きいものも小さいものもあまずっぱくて、がんばって育てたかいがあつたなと思いました。

お父さんやお姉ちゃんも、
「おいしい。おいしい。」

と、何度も言ってくれました。キュウリも、まっすぐじゃなくて変な形もあつたけれど、最高の味でした。

でも、うれしかったことばかりではありません。うどんこ病になつてだめになつてしまつたり、暑さでかれてしまつたりした野菜もありました。たくさん調べて、お母さんといっしょにいろいろとやってみたけれど、だめでした。

「大きくなあれ。」

と、とっておきのじゅもんをとなえたのに。こんなに毎日心をこめ

て水をあげているのに。野菜たちのことが、こんなに大好きで、お世話をがんばっているのに。ぼくがどんなにがんばっても、野菜たちは元気になってくれませんでした。ぼくは、悲しくて悲しくてなきました。

ぼくたちが毎日食べている野菜は、農家さんたちが一生けん命、大切に育ててくれてるんだなあと、ぼくも野菜を育ててみて分かりました。野菜を作るって、本当に大変です。うまくいかないこともたくさんあります。大切にしていた野菜がかれてしまうことは、本当につらいことです。でも、野菜をしゅうかくできた喜びは、今までの苦労がふきとぶようなうれしさです。

ぼくはこれからも、たくま農園の野菜たちに毎日水やりをして、お世話をがんばっていきます。

「大きなあれ。」

今日も、とっておきのじゅもんをとなえながらお世話をします。

「もつともつと、大きなあれ！」